



風景の句読点

Punctuation of Scene 第20回

布引の滝（雄滝）

布引の滝

新幹線の音が消える場所
(兵庫県神戸市)

都市の背後にひそむ名瀑

山陽新幹線の新神戸駅を降りてわずか数分。都市のすぐ背後に、古くから名瀑として知られる布引の滝が現れる。神戸市中央区を流れる生田川中流、名水百選にも選ばれた布引溪流にかかる滝であり、日本の滝百選にも名を連ねる。

布引の滝は一つの滝ではない。上流から雄滝、夫婦滝、鼓ヶ滝、雌滝の四滝の総称であり、なかでも最上流の雄滝は落差43mを誇る。約200mの間を連続して水が流れ落ちる様子が白布を垂らしたように見えることから、「布引」の名が生まれたとされる。

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。

パシフィックコンサルタンツ株式会社
松野 奈実 MATSUNO Nami (会誌編集専門委員)



みはらし展望台から見た神戸市街地

最も近い雌滝までは新神戸駅から徒歩約5分、雄滝でも15分ほど。整備された遊歩道は、地元住民にも親しまれる身近なハイキングコースとなっている。

竜宮の伝承が残る滝

現在は気軽に訪れることのできる布引の滝だが、かつては下界とは一線を画す聖域であったとされ、和歌山県的那智の滝、栃木県の華厳の滝と並び、日本三大神滝の一つに数えられてきた。

ここには竜宮城の乙姫にまつわる伝説が残る。滝壺には乙姫が住み、雄滝上流の大小五つのおうちつ罅穴は竜宮城へと続いているという。滝が白く見えるのは、乙姫の白布が水にさらされているから——そんな語りは、滝の名の由来とも重なり、今も人々の想像力をかき立てる。

平安の時代から愛された景勝地

日本三大神滝の中で、最も早く名が知られたのが布引の滝である。平安時代、『伊勢物語』第87段に滝見物の場面が描かれ、在原行平・業平兄弟がこの地を訪れたことが語られている。兄・行平が不遇を嘆く歌を詠み、弟・業平がそれに応じたやり取りは、滝の情景とともに語り継がれてきた。その後も多くの貴族や歌人が訪れ、数々の名歌を残した。

布引の滝までの道中に点在する歌碑は、明治期に市民団体「花園社」が建立した「布引三十六歌碑」である。震災による喪失を経ながらも、神戸市によって復旧が進められ、現在はすべての復旧が完了している。新神戸駅からみはらし展望台、生田川公園にかけて、散策しながらこの場所にまつわる歴史を感じることができる。

都市から自然の中へと歩く

実際に現地を歩いて印象的だったのは、都市と滝との距離の近さである。新幹線の走行音や発車ベルの音が遠のくと、ほどなく水音が響き始め、気づけば目の前に滝が現れる。その移ろいはあまりにも自然で、都市と自然の境界を意識させない。

雄滝からさらに少し足を延ばすと、みはらし展望台があり、神戸の街を一望できる。ここから眺めると、都市と自然の近さを改めて実感する。ここにはラジオ体操広場もあり、地元の人に親しまれている場所であるということもよくわかる。駅から15分程度という距離感も、朝のリフレッシュにはぴったりだ。

布引の滝は、神戸という都市のすぐ背後にあり、都市から自然へとつながる入り口のように感じた。神戸を訪れた際には、新神戸駅から少し足を延ばして、この滝まで歩いてみてはいかがでだろうか。

<参考資料>

- 1) 神戸公式観光サイト 布引の滝 <https://www.feel-kobe.jp/facilities/0000000093/>
- 2) アクセス!神戸六甲山 布引の歌碑 <https://kobe-rokko.jp/kahi/>
- 3) 神戸市 布引三十六歌碑 <https://www.city.kobe.lg.jp/d49614/kuyakusho/chuoku/shoukai/nunoichi/36kahi.html>

<写真>
全て著者



遊歩道に点在する布引三十六歌碑